

分詞から始めよう

小 椋 真由美

現在の学校英語文法の問題点は、断片的な暗記に閉じ込められ統一的理解に開かれていないということであるが、このことの身近な例として、「進行形」「受け身形」「完了形」のかげに隠れて、「分詞」について十分な説明がなされていないということが指摘できる。生徒や学生がいくつもの些末な文法の公式の暗記から解放され、もっと暢暢と英語を使い回せるようになるには、彼らは、「進行形」や「受け身形」ではなく「現在分詞」と「過去分詞」から始めねばならない。「分詞」にはどんな語句と結び付いても変わらない一定の意味があり、「進行形」・「受け身形」や「完了形」あるいは名詞を修飾するという用法が、「分詞」の用法の全てではなく、「分詞」は、ほかにも様々な語句と結び付き様々な状況を表現しうるからである。このようにして、「進行形」や「受け身形」の公式を断片的に暗記することを止め、「分詞」を統一的理解すると、日本文に縛られず、英文をそのまま捉まえることも可能になる。自由な英語表現の領域は広がり、ほかにも多くの断片的な文法や語法の公式が相対化される。

* 帝京平成短期大学紀要 13 33-38 (2003) の要約